

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 39 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2019 年 4 月 24 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

2. 場所 原子力安全推進協会 13 階 第 D 会議室

3. 出席者（順不同，敬称略）

（出席委員）河西（主査），山本（正）（副主査），村松（幹事），後藤，齋藤，野口，根本，田中，
三木，関口（10 名）

（代理出席委員）山岡（山本(修)委員代理），長峰（井尻委員代理），天沢（中田委員代理）（3 名）

（欠席委員）川上，小峯，徳永，久田，宮脇，白石，石橋（7 名）

（欠席常時参加者）東原，田村（3 名）

（委員候補）梅原（1 名）

4. 配付資料

F14SC39-1 議事次第

F14SC39-2 人事について

F14SC39-3 第 38 回 LLW 埋設後管理分科会議事録（案）

F14SC39-4 分科会コメント対応表

F14SC39-5 標準本体及び附属書コメント対応資料

F14SC39-6 埋設後管理標準本体改定案

F14SC39-7 埋設後管理標準附属書改定案

F14SC39-8 専門部会向け中間報告に向けた A3 概要資料

F14SC39-9 専門部会向け中間報告に向けた説明資料

F14SC39-10 分科会工程見直し案

5. 議事

(1)出席者/資料確認

村松幹事より、委員総数 20 名中 14 名の出席があり、分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた

(2)人事について

村松幹事より、F14SC39-2 に基づき、人事に関する決議事項、報告事項、及び承認事項に関する説明があり、とくに異議なく決議／承認された。

(3)前回議事録の確認

F14SC39-3 の資料について、前回（第 38 回）議事録(案)の確認が行われ、分科会委員によるコメントの修正箇所が紹介され、特に議論なく正式議事録となった。

(4)埋設後管理標準の改定について

<F14SC39-4 分科会コメント対応表>

- ・コメント対応は、本分科会までで一通り対応済みとなったのか？（河西主査）
- ⇒対応保留以外は対応済みとなった。今後の分科会、専門部会等で更なるコメントが発生した場合には都度対応する。（関口委員）

<F14SC39-5 本体コメント対応>

- ・表 AH.3 の 2 行目と一番下の行の取得項目は地下水から取得するデータになっているが、陽イオン交換容量のみ岩盤から取得する項目なので区別した方がよいのではないか。（後藤委員）
- ⇒2 行目はボーリング孔内のコアから採取すると考えられるが、一番下の行はトレーサ手法との記載があり、どこで陽イオン交換容量を測定するのかを明確にした方がよい。（山本副主査）
- ⇒地下水の取得項目について確認する。また元々、地下水の水質という表現をしていた箇所の扱いについても合わせて確認をする。（関口委員）
- ・図 AF.1 で閉じ込め、移行抑制、離隔の順番に揃えたとあるが、他の標準とも順番を揃えるようにした方がよい。（山本副主査）
- ⇒施設検査標準では L1 改定の議論に入っていない。安全評価標準では基本安全機能を取り上げて説明していない。今後、他の標準で基本安全機能を取り上げる場合には整合するようにするが、説明の状況によって順番が変わることもあり得る。（関口委員）
- ・図 AJ.1 について右上の点線四角内に「線量評価」があるが、この工程で線量評価を行うのか？（村松常時参加者）
- ⇒この工程は線量評価の考慮事項に基づき重点評価項目を定めることが目的であり、線量評価を実施する工程ではない。（関口委員）
- ⇒この記載の基になっているのは申請時の線量評価と考えられる。（山本副主査）
- ・図 AJ.1 について、追記した箇所が各二重四角線のタイトルになっているが分かりにくい。タイトルを別の枠で加工などして、どれがタイトルか分かるように工夫してほしい。（山本副主査）
- ⇒拝承。（関口委員）

<F14SC39-6 本体改定案>

- ・目次は記載しなくてもよいのか？（村松常時参加者）

⇒中間報告時では目次や前段の記載は不要と考える。（梅原委員）

⇒説明用の PPT 資料では目次を掲載している。（関口委員）

<F14SC39-8 中間報告 A3 概要資料>

- ・本資料は、専門部会・基本戦略タスク・標準委員会で使用する説明資料である。（村松常時参加者）
- ・説明時間は 10 分程度で質疑が 5 分程度となる。（梅原委員）
- ・説明の際にはカラー印刷をすること。（河西主査）

⇒拝承。（村松常時参加者）

<F14SC39-9 中間報告 説明資料>

- ・最初のタイトルページに「LLW 埋設後管理分科会」と追記したほうが良い。（村松常時参加者）

⇒拝承。（関口委員）

- ・P.2～6 のページ表記のフォントが小さい。（後藤委員）

⇒拝承。フォントを大きく修正する。（関口委員）

- ・P.2 に使用している図面は、「原子力・エネルギー図面集 8-1-5」に加筆した旨を記載すること。（河西主査）

⇒拝承。（関口委員）

- ・P.5～6 「標準の適用範囲の整理」だけでは P.5 と P.6 で違いが分かりづらい。各ページの内容の説明を入れてタイトルを区別した方がよい。（後藤委員）

⇒拝承。（関口委員）

- ・P.6 図中に使用していない凡例が記載されている（黄緑・橙色・赤字など）。凡例を修正すること。（河西主査）

⇒拝承。元々 1 つの表だったものを分けており、P.6 の方で使っていない凡例があるので削除する。（関口委員）

- ・P.7～8 図面に出典がないが、本事業で作成した図面か？（河西主査）

⇒本事業で作成した図面のため、出典の記載はない。（関口委員）

- ・P.11 赤文字と黒文字が何を指しているのか、注記で示すこと。（河西主査）

⇒拝承。（関口委員）

- ・P.14 周辺監視区域などに係る監視は、保全段階も行うのか。（仲田代理）

⇒保全段階で周辺監視区域の廃止をした後は、周辺監視区域そのものがなくなるので周辺監視区域での監視の位置付けではなくなるが、事業規則により近傍での地下水の監視は引き続き実施する。その点については本体の 6.4.4 に記載している。（関口委員）

- ・P.15 閉じ込め機能の範囲に関して、本体に記載はあるか？（村松常時参加者）

⇒本体 6.2.2 の表 7 に「廃棄物埋設地の限定された範囲に閉じ込め」と「廃棄物埋設地内に閉じ込め」の記載がある。「廃棄体のみで閉じ込め」と「人工バリア全体で閉じ込め」は附属書 P で記載があり、本体 6.2.2 で附属書 P を呼び出している。（関口委員）

- ・ P.15 文字の印刷不良や空白の非表示など，体裁を見直すこと。（山本副主査）

⇒拝承。（関口委員）

＜F14SC39-10 L1 埋設後管理標準に係る分科会工程案の件＞

- ・ 本日（第 39 回分科会）のコメント対応案を 5 月第 2 週までにメールで提出する。今後はメールにて審議を行う方針とし，メール審議のみで充分であると判断した場合には，第 40 回分科会は行わない。（村松常時参加者）
- ・ 専門部会への中間報告は 9 月の予定とする。（村松常時参加者）

⇒次の専門部会で中間報告を行うことができるのではないかと。（山本副主査）

⇒専門部会の日程が 5 月 23 日で，その前に基本戦略タスクがあるが，分科会のコメント対応の確認も含めると時間的に厳しい。今後，基本戦略タスクの位置付けを明確にするという学会の話もあるので，まずは 5 月中に分科会の中間報告案をとりまとめて，その後の日程に合わせていくようにする。（河西主査，村松常時参加者）

以上